

はままつじょうはっくつつうしん
浜松城発掘通信

№3

浜松市文化財課（浜松市地域遺産センター） 2018年2月22日

浜松城跡の発掘調査、終盤を迎えています。

浜松城跡の発掘調査は開始して2ヶ月ほどが経過し、多くの成果をあげることができました。2月10日（土）には現地説明会を開催し、870名を超える市民の方が最新の調査成果をご覧になりました。今号はここまで判明した主な調査成果と説明会の様子をお伝えいたします。



現地説明会のようす 発掘調査の成果とともに、石垣の特徴の説明にも多くの市民の方が関心を寄せました。



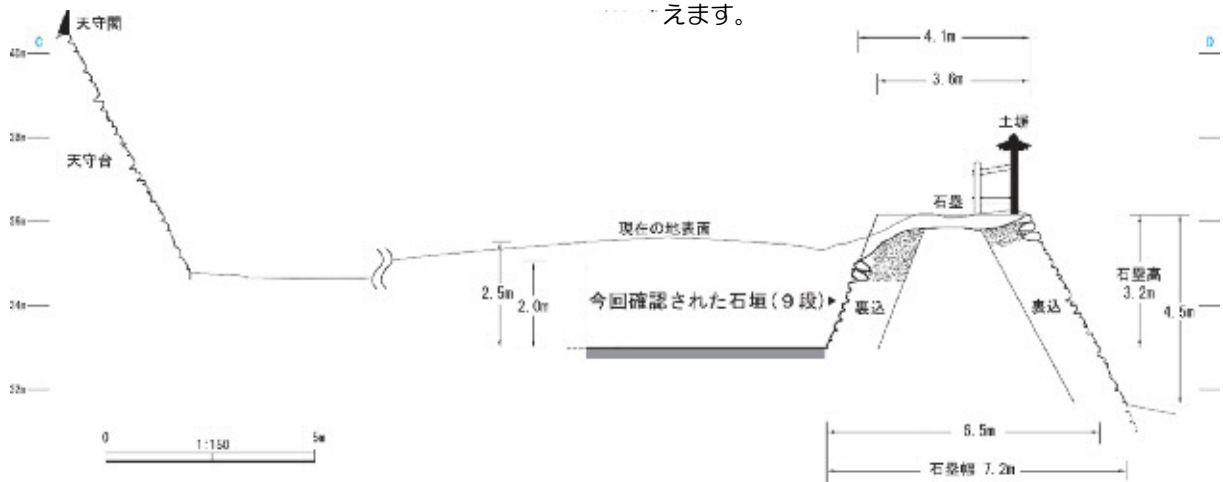
姿をあらわした石垣

部分的に内側石垣の基底部まで確認しました。石垣は9段ほどが残っており、その遺存状態も良好です。



天守曲輪 盛り土層の出土品

天守曲輪の内側はある段階で2mほど盛り土されております。盛り土層から出土する瓦は17世紀末葉のものが多く、盛り土された時期がうかがえます。



天守曲輪南側石垣断面模式図

天守曲輪南側の土塁内側には高く積まれた石垣が良好な状態で埋もれていました。想定できる高さは3.2m以上、傾斜角度は70度。出土遺物や石垣の特徴から、天正18年(1590)に徳川家康に代わって浜松城主となった堀尾吉晴の手によるものと推定できます。

今後の作業について

浜松城跡の発掘調査は、2月末日をもってほぼ終了いたします。今後は、出土品や図面を浜松市地域遺産センター(北区)に持ち帰り、出土品にかかわる詳細な調査や、発掘現場で作成した図面などを編集する整理作業に入ります。

今後の整理作業の進展によって新たな事実が判明する可能性もあり、期待がかかります。引き続き、浜松城の調査にご注目下さい。

